

健診は生活習慣を見直すチャンスです！

表1 平成27年度と平成30年度の国保被保険者数等比較

	平成27年度	平成30年度	増減	
A 国保被保険者数	6,944人	6,284人	660人減	
B レセプト件数(1か月)	入院外	4,580件	4,131件	449件減
	入院	167件	159件	8件減
	調剤	3,430件	3,161件	269件減
計	8,177件	7,451件	726件減	
C 医療費	1億9,447万2,860円	1億8,897万2,163円	550万6,977円減	
D 患者数	3,369人	3,053人	316人減	
C/A 被保険者1人あたりの医療費	28,005円	30,071円	2,066円増	
C/B レセプト1件あたりの医療費	23,782円	25,361円	1,579円増	
C/D 患者1人あたりの医療費	57,724円	61,897円	4,173円増	
E レセプト件数(12か月)	98,130件	89,403件	8,727件減	
F 高額(50万円以上)レセプトの件数(12か月)	796件	889件	93件増	
F/E 総レセプト件数に占める高額レセプトの割合	0.81%	0.99%	0.18%増	

平成27年度と平成30年度を比較すると  
 ・国保被保険者数は**9.5%減少**  
 ・レセプト件数は**8.8%減少**  
 ・患者数は**9.4%減少**  
 ・医療費は**2.8%減少**  
 ・**高額レセプトの割合は0.18%増加**

高額レセプトの増により、被保険者1人あたりの医療費は増加している  
 ⇒医療機関にかかる際には既に「重症化」している？

表2 平成30年度高額(5万円・50万円以上)レセプト分析(患者数が多い順)

順位	分類	主要疾病名(上位3疾病)	患者1人あたりの医療費(円)
1位	その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌、去勢抵抗性前立腺癌、膵頭部癌	3,922,461
2位	骨折	骨折、橈骨遠位端骨折、胸椎圧迫骨折	1,947,961
3位	その他の心疾患	非弁膜症性発作性心房細動、肺動脈性肺高血圧症、大動脈弁閉鎖不全症	2,987,036
4位	その他の損傷およびその他の外因の影響	肩腱板断裂、内側半月板損傷、肩腱板損傷	1,464,462
5位	その他の損傷およびその他の外因の影響	逆流性食道炎、癒着性イレウス、急性汎発性腹膜炎	1,838,137

ロコモティブシンドローム  
関連疾患を含む

生活習慣病  
関連疾患を含む

表3 平成30年度疾病別医療費統計(上位10疾病抜粋)

順位	中分類疾病項目	医療費	構成比
1	その他の悪性新生物<腫瘍>	1億7,050万7,917円	7.6%
2	その他の神経系の疾患	1億4,218万8,937円	6.3%
3	糖尿病	9,715万6,789円	4.3%
4	その他の消化器系の疾患	9,242万5,435円	4.1%
5	腎不全	7,858万7,687円	3.5%
6	高血圧性心疾患	7,545万3,823円	3.4%
7	その他の心疾患	7,302万2,133円	3.2%
8	統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害	6,398万2,129円	2.8%
9	骨折	5,042万5,407円	2.2%
10	脂質異常症	4,975万2,489円	2.2%

生活習慣病  
関連疾患を含む

ロコモティブシンドローム  
関連疾患を含む

●須恵町国民健康保険(国保)最新医療データ

平成27年度と平成30年度の被保険者数などを比較した表を掲載しています。(表1)この表から、平成30年度の被保険者数は、平成27年度の被保険者数に比べ、9.5パーセント減少し、患者数も9.4パーセント減少していることが分かります。しかし、医療費は2.8パーセントの減少にとどまっています。これにより、1人あたりの医療費は増大しており、病院にかかる際には既に重症化しているのではないかと推測できます。

左ページには平成30年度に発生した高額(50万円・50万円以上)レセプトの疾病傾向を示しています。(表2)上位2疾病の患者数は表示していませんが、経年で増加傾向にあります。

1位の「その他の悪性新生物」は前立腺癌のような疾病が多くみられます。

2位の「骨折」は、「ロコモティブシンドローム(以下ロコモ)」に関連

●医療費が多くなっているのは、生活習慣病疾患

表3に、平成30年度の須恵町国民健康保険の疾病別医療費統計(上位10疾病抜粋)を示しています。この中の生活習慣病に関する疾患について見ていきます。

3位 糖尿病

須恵町国保の被保険者において、患者数が非常に多いこともあり、医療費を押し上げています。高血糖の状態が長く続くと、全身の血管が傷み、さまざまな合併症を起こすことがあります。糖尿病は、次のような合併症を引き起こすことがあります。

- 糖尿病性神経障害
- 糖尿病性腎症
- 糖尿病性網膜症

腎臓の働きが悪くなります。目の中の血管が傷ついて視力が落ちます。

する疾患」を含んでいます。ロコモとは、運動器の障害のために自立度が低下し、介護が必要となる危険性の高い状態を指します。なかでも、「骨粗しょう症」は、加齢とともに増加しています。この疾患の増加は、将来、医療費や介護に要する費用の更なる増加が懸念されます。

3位の「その他の心疾患」は「生活習慣病関連疾患」を含んでいます。1位から5位までの疾患は、全て患者1人あたりの医療費が100万円を超えており、医療費を削減するためには、「早期発見・早期治療」をし、重症化させないことが必要です。

※レセプトとは、患者が受けた保険診療を病院などが市町村や健康保険組合などに請求する医療報酬の明細書のこと。

重症化すると透析をしなければならぬなど、さらに医療費が高額になってしまいます。

5位 腎不全

腎炎などの病気で、血液を濾過する「糸球体」の網の目がつまってしまうと腎臓の機能が落ち、老廃物を十分排泄できなくなります。

このような状態を腎不全といい、腎臓の働きが正常の30パーセント以下に低下した状態であることを示します。いったん慢性腎不全になると、腎機能は回復不可能となります。

6位 高血圧性心疾患

最高血圧が140mmHg以上、あるいは最低血圧が90mmHg以上であれば、高血圧と診断されます。

高血圧があると、心臓は絶えず強い圧力をかけて血液を送り出さなくてはならず、筋肉が厚くなって心肥大を起こします。さらに高血圧が続くと、徐々に心臓は疲弊